

第8回アフリカ開発会議（TICAD8）に向けた取り組み

アフリカ開発会議（TICAD）は、ケニアで2016年に開催されたTICAD6以降、3年ごとにアフリカと日本で交互に開催されることになりました。2019年にはTICAD7が横浜で開催され、その翌年の2020年7月には、TICAD8が2022年、チュニジアの首都チュニスで開催されることが決まっていた。しかし、その後が課題でした。

パンデミックと政情不安の危機にさらされた TICAD8

2020年初頭から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックが世界を席卷。TICAD8は、2022年8月27-28日、パンデミックのさなかに開催されることになりました。一方、チュニジアの政治情勢も予想外に困難を極めました。2021年7月、カイス・サイード大統領は緊急事態を宣言、首相を解任、議会を解散して大統領親政を開始。アフリカ連合（AU）はこれに「懸念」を表明しました。また、多くの政党や労働組合がこれを批判、政治情勢も悪化し、「TICADは開催できるのか」と心配の声が高まりました。2022年7月、新憲法案への国民投票が行われ、サイード大統領側が勝利したため、国際環境や政治情勢は若干改善されました。その結果、当初は、岸田総理（当時）、日本政府を含む共催団体、およびアフリカ諸国の首脳や代表団のみで小規模に開催することが検討されていたところ、一部の企業関係者や民間人なども招待ベースで参加することになりました。

日本・アフリカの市民社会、オンラインで2回の共催者対話を開催

日本・アフリカの市民社会のTICAD8への参加については、COVID-19パンデミック下ということもあり、TICAD7までと比べて大幅に制限されることになりました。「TICAD NGO 連絡グループ」では、少なくとも、日本とアフリカの市民社会と共催団体との対話についてはしっかり取り組もう、ということで、共催団体の一つであるUNDPなどと調整を行いませんでした。その結果、まず、4月5日に、UNDP主催の「TICAD8に向けたマルチセクター対話」（Multi-sectoral Dialogue for TICAD8）が開催され、アフリカ・日本の市民社会の他、多くの国際機関も参加。日本政府からは米谷光司アフリカ部長が出席し、TICAD8に関する方針などについて説明。アフリカ市民社会からは、アフリカ市民協議会（CCfA）のメンバーが出席。事前にオンライン会議なども行なってしっかり準備をし、開発、環境、経済の全ての論点にわたって提言と質問を行いました。



「TICAD8に向けたマルチセクター対話」の閉会挨拶（オライデ・アカニ氏撮影）

TICAD8が間近に迫った8月9日には、アフリカと日本の市民社会が共同で、TICAD8開催の主管部局である外務省アフリカ部とのオンライン対話を行いました。外務省からは、アフリカ部の宮下匡之参事官が出席。2時間にわたり、市民社会と政府で、開発、平和と安定、経済の各側面についての対話を行いました。

オンライン・サイドイベントも4つ開催

TICAD8については、オンラインでの公式サイドイベントの枠が設けられました。日本とアフリカの市民社会は、以下の4つのサイドイベントを開催しました。

（1）8月23日 UHC 達成にはコミュニティとの連携を：アフリカにおける日本の保健 ODA の在り方についての調査と提言

主催：アフリカ日本協議会、東アフリカ地域全国エイズ・保健サービス組織ネットワーク連合（EANNASO：在タンザニア）、必須医薬品アクセス連合（RAME：在ブルキナファソ）

(2) 8月23日 ともに働く：COVID-19 への対応に関する TICAD のアフリカ開発のための多国間イニシアティブの仕組みの経験に学ぶ主催：アフリカ市民協議会 (CCfA)、WACI Health、TICAD NGO 連絡グループ

(3) 8月28日 アフリカと日本のユース・デジタル/ヴァーチャル・プラットフォームのローンチング
主催：アフリカ市民協議会 (CCFA)、参加型調査・開発センター (CEPHARD、ウガンダ)

(4) 8月28日 TICAD8 でどうなる？ グローバルファンド第7次増資とアフリカの保健への各国の資金動員の在り方
主催：WACI Health、グローバルファンド活動者ネットワーク (GFAN) アフリカ、アフリカ日本協議会

TICAD8 では、残念ながら、日本とアフリカの市民社会による直接の会議参加はできませんでしたが、しかし、アフリカと日本の市民社会と TICAD 共催団体をオンラインでつないでの2回の対話や、4つのサイドイベントの開催など、厳しい状況でも可能な形で市民社会の参加を実現し、TICAD を、市民社会に開かれた、アフリカ開発のための多国間プラットフォームとして維持することに一定の役割を果たしたということはあるでしょう。



TICAD 8 サイドイベント「ともに働く」のフライヤー